



さつま町の ICT 環境について 山崎小学校編 20220523現在から0621一部修正

文責:西部地区学校事務支援室 大井陽一郎(山崎小)【県事協提供用】

1 はじめに

ここ数年,GIGA スクール構想や感染症対策予算等の関係で学校における ICT 環境は劇的に変化しました。さつま町で6年目を迎える私(学校事務職員)は他市町の情報を持ち得ていません。それどころか町内での活用状況もコロナ禍も相まって分かりません…。みなさんも似たような感じではないでしょうか?今回は、山崎小での取組を中心に紹介させていただきます。これらは教育総務課と相談・確認しながら「試行」というかたちで進めさせていただいたものです。先行しているからこそ、成功も失敗も、また検証中のことも含め紹介する義務があるのかなと思ひ、この支援室便りの場を借り報告させていただきます。

ただ私はスマホを持たないくらいその辺に疎い者です。もちろん、授業もしません。また、各校で環境(条件)が異なることもご理解ください。今回も?超長編。しかも余計なことも?いっぱい書いています(笑)。それでも頑張って読んでもらえたら、還元できることがあると思います(多分…)。

2 ちょっと寄り道? (「さつま町版デジタル教科書導入物語」)

各校で共通する話題は省きたいと思います。…が、その前に最近、赴任された方も(教育総務課や学校教育課の職員も含めて)いらっしゃるので、さつま町のデジタル教科書導入に関する「物語」を紹介しておきます。

他市町と比較しても引けを取らない。いや充実していると思いませんか?。これは2020年度の小学校教科書改訂に向け取り組まれた学校事務職員部会と教育総務課・学校教育課が連携して得られた成果です(...と、勝手に思っています)。それは前年度の予算要求がポイントでした。

学校にとって「教育委員会」は町役場における唯一の「窓口」となります。よって教育委員会には学校現場の状況をしっかりと把握していただき町当局から必要な予算を引き出してもらわなくてはなりません。そのために学校事務職員(財務担当者)は、各校で「予算要求資料(町当局と話し合う『材料』)」を作成し提出しています。

また、学校事務職員部会では「共通する学校の課題」を伝えるために「『教育総務課』『学校教育課』に対する質疑・要望等について」を毎年作成し、提出しています。

いずれの「情報」も「教育総務課」と「学校教育課」には連携して予算獲得を頑張っていたきたい...との「熱い想い」が詰まったものとなっています。

その成果として?。学校教育課では国語・算数・英語のデジタル教科書の予算を確保していただきました。また、教育総務課では通常の教材備品費以外に「小学校デジタル教科書(国語・算数・英語以外)」予算として1校あたり???,???円確保していただきました。これは社会科・理科のデジタル教科書がほぼ購入できる金額です。また、教材備品費と組み合わせた利用も可能。各校で自由に判断してよいものでした。例えば、理科専科がいる学校では理科のデジタル教科書購入を見送り、他の備品を充実させるなど、各校にあった活用がなされました。この教育総務課と学校教育課の絶妙な連携はうれしい「サプライズ!」。これがさつま町における充実したデジタル教科書の正体(物語)です。翌年度の中学校での教科書改訂にも生かされたと思います。次回の改訂につなげるためにも有効な活用と各方面での引継ぎをお願いします。もちろん、私たち事務職員部会も含めてです。

3 やっと本題(山崎小での取組)

(1) アクセスポイント

教育総務課と業者で予算の制約?や校舎配置等からアクセスポイントの設置数と場所がある程度決められていました。しかし、山崎小は校舎配置が悪いのか?カバーできるエリアが極端に狭かったのです(教育総務課に相談しましたが増やせませんでした)。そこで【業者名】と打合せを重ね設置場所を検討しました。設置条件(児童の活動場所優先)があり、変更は困難を極めました。山崎小の図書室は室内の2階スペースに閲覧コーナーがあり、PTAの会合や研修会でも利用されていました。当初はカウンター周辺を中心に想定されていましたが全てのエリアからアクセスできるように2基設置。もちろん2階での利用も想定しましたが、蔵書点検や児童のタブレット使用時に死角が発生しないよう配慮しました。当初、管理棟は児童が使用する可能性がある保健室だけでした。他校では職員室や事務室等にも設置されている状況を確認。この差を指摘することで、なんとか職員室だけは後日、追加設置してもらいました。その際には、隣接する校長室にも届くように設置場所を工夫してもらいましたが、事務室までは届きませんでした。

(2) 図書室用パソコン

ICT支援員にワイヤレス化について相談するとパソコン本体が無線LANに対応していないことが分かりました。そこで教育総務課に相談し許可を得てから、レシーバー(アンテナ?)を購入し設定をしていただきました。これは赴任直後(5年前)に司書補(現:学校図書事務)からあった蔵書点検用ワゴンの購入要望に応えられず、代わりに閉校した学校から長~いLANケーブルを探しだしパソコン本体を蔵書に近付け点検する方法で解決を図った経験を生かしたものでした。蔵書点検だけでなく、日常の貸出業務でも利用しやすいようです(ちなみにマウスもワイヤレス化しています)。これらはアクセスポイント設置後に相談・提案し実現できました。

また、校務フォルダの設定ができれば(可能かどうかの確認はしていませんが)、便利だと思います。しかし、職員が常駐できず、児童も操作するパソコンです。リスクが高いので要望はしていません。ただメールアドレスはあってもいいように思います。図書関係の調査及びその報告は年間をとおしてあります。カラー印刷や学校図書事務同士の連携にも活用できます。もしかすると今年度から変更された勤務形態(勤務関係の報告等)にも有効なのかもしれません。ただ技術面、コスト面、そして、本人が希望されるか...等の確認は必要だと思います。

(3) 校務用パソコン

2021年度から(こちらも試験的に、かつ教育総務課の許可あり)ワイヤレス化(LANケーブルでも使用可)。これにより職員室でのLANケーブルの奪い合い?や遠慮し合い(笑)から解放。当たり前ですが、アクセスポイントが届く場所ならどこからでも接続できる状態に。しかし、校務用パソコンは重要なフォルダに接続できる「個人情報」の宝庫。パスワード設定等はありませんが、職員室外での「置きっ放し」は厳禁。他市町では職員室からの持ち出しが、厳しく制限されているところもあるくらいです。これについては「使い手のモラル」が問われます。全職員で共通理解を徹底し、もし少しでも問題が発生すれば、町内全校に影響が及ぶ可能性があることを自覚していただいています。また、今回の「支援室便り」の発行にあたり、事前に内容確認をお願いしたことで、あらためて共通理解ができました。

(4) 複式学級化対応

教室の片側には情報コンセント(黒板も)が未整備だったため、インターネットを利用した授業ができませんでした。ここでも「試験的に...」と教育総務課の許可を得て、ICT支援員にワイヤレス化設定をしていただきました。しかし当初は、児童と同じ(タブレット)設定だったためインターネットは使えましたが印刷はできませんでした。担任から指摘(要望)を受け、初めてその状況を把握したところです。改善すべく、まずICT支援員に相談しましたが厳しいとの回答。それでも諦めきれず、(アクセスポイント等の導入業者である)【業者名】が別件で来校した際に直接相談しました。その場での作業とリモート対応の組み合わせでなんとか解決(こちらも教育総務課の許可あり)。黒板については、担任からリクエストで児童が記入しやすい高さに調整できる、場所を取らない小さめな移動式黒板を購入。いずれも2021年度から。

(5) 授業用パソコン

複式学級化対応後、しばらく様子を見ていましたが、トラブルが発生しなかったので、教育総務課に提案。2022年度からは試験的に全てをワイヤレス化(LANケーブルでも使用可)。設定時にはICT支援員に【業者名】から技術的ノウハウとセキュリティ面を確認していただいてから作業をしてもらいました。現在も通信速度やセキュリティ面の検証を行いつつ、慎重に活用中。今後、学校の新設や大規模改修時にはコスト面から考えても、このような対応に替わっていくのかもしれない。

(6) コピー機の活用

パソコンの更新時に利用できなくなった機能もありましたが、コピー機のメンテナンス業者の来校時に相談すると、操作方法は変更されましたが、機能を回復させることができました。丁寧な対応に感謝です。

カラスキャナー機能(この機能が一時期使えなくなりましたが回復)

A3サイズまで使用可能。コピー機はモノクロですがスキャナーは「カラー」もできます。取り込んだデータをカラーレーザープリンタで印刷すればカラーコピー機と同等の機能を発揮します。デジタル教科書が導入されるまでは低学年を中心に教科書(冊子)から挿絵をスキャンしたり、出展した図画作品(八切サイズ等)が返却されるまで掲示用に印刷したり、縮小して週報に載せたりと用途は職員で編み出されていきました(笑)。もちろん校務でも活用しています。

プリンタ機能

プリンタとしても活用。山崎小で一番コストの安い機種なので優先的に利用していただいています。ちなみにコピーは1原稿30枚までとし、各学級や職員への配布物は全てコピー機で対応。業務改善にもつながっています。

教育課程印刷

外注するお金はありません(笑)。ページ印刷とソート機能をフル活用。拾い取り作業もなくなり、原稿の提出期限も延ばせました。但し予備の作成はほとんど行わないこと。事前に印刷枚数(ページ数×冊数)を決めてもらっています。これは原稿さえあればいつでも印刷できること。また年度末予算執行(予算オーバーを防ぐ)のため細心の注意が必要でした。

ただ、良いことばかりではありません。印刷スピードが遅く、コピーや印刷が集中するとたちまち渋滞します。その辺はみなさんと融通し合うしかありません。私も他の職員が利用しない時間帯にコピーするよう心がけています。正直言うと...。もっと印刷スピードが速い機種が欲しいです(笑)。

(7) プリンタ環境

山崎小では、新しいプリンタが導入された際に、既存プリンタを再活用できないか検討します。これまでもオープンスペースに移設(2クラスに1台、計3台)。よって授業用パソコンからのモノクロ印刷はこちらに(大量なものはコピー機へ)。カラー印刷は職員室に...と使い分けています。残念ながら山崎小では建設当初からパソコン室内で完結するネットワークが構築されており、パソコン室内のプリンタには外部からアクセスできません。何度も教育総務課や業者に相談しましたがダメでした。パソコン室外にプリンタを移設すれば利用可能となりますが今でも授業で活用しているため移設できずにいます。保健室にもモノクロレーザープリンタを移設しています。それぞれで有効に活用していますが古いため印刷のキレイさを求めているとはいえません(笑)。両面印刷に対応しない機種がほとんど。破損すれば修理もしません。即撤去。また、多くのプリンタを維持することは予算を圧迫します。そのため節約に徹することを常にイヤと言うほど呼びかけ続けています(笑)。そうでなければ予算は崩壊します。全てを都合良く維持するなんてことはありえません!

輪転機は全児童・P・地域等の配布に関する物がほとんど。学校便り等をキレイに印刷する際は、データ(USB)から直接印刷しています。アクセスポイントの設置時にLAN接続についても相談・検討しましたが、使用頻度が低かったため、そこまでは求めませんでした。紙原稿からの印刷と比べ格段にキレイなようです。この使用方法等は導入業者から直接、管理職(教頭先生中心)に教えていただき、引き継いでもらっています。そのような機能があることは知っていたので紹介しましたが、使い方までは分かりません(笑)。

(8) 【商品名】(児童・生徒用机の天板を拡張し広く使えるようにするもの)

2021年度の感染症対策予算と2022年度配当予算を活用し、全児童分購入(各担任及び校長先生に設置していただきました)。これはICT支援員との会話のなかで他市町の状況を尋ねたところ「大島地区の学校で使っているものが良かった。」...との情報を得て、職員へ提案しました。机上にタブレットと教科書やノート等を一緒にひろげやすくするために導入。鉛筆等が机上から落ちにくくなったとの報告もあり好評です。先日の情報担当者部会でもICT支援員から紹介があったと聞いています。

(9) ICT支援員を中心に各方面との連携

常にICT支援員と教育総務課を中心に、(カスタマサービスセンタ)【業者名】、【業者名】、コピー機・プリンタ・印刷機の各導入業者等に質問・相談・協議・改善等を繰り返し、連携しています。しかし、ICT支援員の活用は先生方が優先されます。よって、(教育総務課の承認のもと)【業者名】によるリモート対応も併用しながら課題をクリアしてきました。今年度からはICT支援員の訪問回数が年24回(月2回程度)に増えたので相談しやすくなりました。更に、教育総務課ではこれとは別に予算(訪問回数)を確保してくださっています。各校で有効に活用したいものです。もし余るようなら遠慮なく山崎小にて活用したいです(笑)。実は前任校(市)でも同様に連携していました。このように常に連携というか...「徹底活用!」。質問攻めにしています(笑)。時には校内での移動時に歩きながら会話(質疑応答)も。このような積み重ねからこれまで紹介してきた成果が生まれました。既に実現し、忘れていたこともあるかもしれません。それくらい思いついたことを気軽に相談(意見交換)し、改善のヒントをもらっています。とてもありがたい存在です。

(10) タブレット関連

タッチペン・画面保護フィルム・ケースインナー・ネームタグ・電源コード等を購入。使用頻度が低かったり、後発のものが進化したりもしていますが、臨時休校等に備えたりと感染症対策予算の有効活用に努めています。

また、今年度の就学援助制度の支給対象に「オンライン学習通信費」として14,000円実費(上限)【兄弟がいる場合は長子へ支給(世帯への支給)】が新たに加えられました。

(11) 電子黒板とプロジェクター(電子黒板機能付)の導入

山崎小の特筆すべきことは、「これ」(笑)。先月行われた「第1回学校運営協議会(コミュニティースクール)」でも、ある公民館長から突然「電子黒板は使っていますか?。」と活用状況について尋ねられたそうです。実はこの方。電子黒板導入時の【業者名】による研修に、「たまたま?」居合わせ、途中からではあったが、勝手に(笑)入り込み、最後まで参加されたという「つわもの」(笑)。そして、そのことが強く印象に残っていたからこそ、今回の質問(発言)につながったのだと思われます...

実はこの事件?の少し前に、別な「ドラマ」が展開されていました(笑)。それは地域と連携して肢体不自由児(&地域の高齢者)に対応するため、屋外に手摺の設置を要望していました。それが実現できたのでその御礼の連絡をすると、直ぐに私を訪ねてこられました。現場を確認した帰り際の会話からのこの「研修突入事件」へと発展?していきました...。よって私も忘れるわけがありません(笑)。話を聞いた瞬間、「やってくれるな(笑)。」と、うれしく思いました。同時に「私も負けてられないな。」とも(笑)。

話が逸れました。すみません。これは赴任以来、熱く予算要求を続けて、やっと導入にこぎつけました。2020年度の補正予算と150周年記念事業予算を組み合わせ、各3台導入。導入前にはプロジェクターのデモを企画、他校からもご参加いただきました。実際に使用し始めると電子黒板の人气が圧倒的に。記念事業のプロジェクター2台を電子黒板1台にしておけば良かったのかもしれませんが...。しかしこれは実際に授業で活用したからこそ、分かったこと。もちろんプロジェクターも1学級(学年)と複式学級における学年別授業(多目的室)にて常時活用。リモート会議や研修でも利用しています。また、これらの導入で浮いたテレビは特別教室等に再配置し、こちらも有効利用しています。ちなみに年度当初の「電子黒板をど

の学年で使用するか会議?」では緊張感が漂う? 駆け引きが展開されるようです(笑)。どうしても担任の負担が大きくなる複式学級へ優先的に配置されていますが。

実は前任地()市)でも教育総務課へいろいろな提案を行っていました(笑)。閉校した学校からの移設も含め 3 台確保し好評を得ていました(完全複式時は各クラス 1 台。片方は普通のテレビ)。当時とは比べものにならないくらい性能が進化。使いやすくなっています。本当はもう一回り大きいものを。全学年+理科室の計7台の導入を目指していました。よって今でも予算要求を継続中(毎年度、先生方からの要望一位です)。特に複式学級での需要は高いと感じています。

しかし、デジタル教科書やこれらの機材を使用する・しないも含め、授業スタイルは先生方の自由。タブレットや小黒板を駆使したり、付箋やタイマーを活用したり...可能な限り要望に添えるよう努力しています。今年度も小型の移動式黒板を購入予定です。

また高価なものなので導入は、前回のように町長(決裁)を巻き込まない限り、無理だと思われま。よって国の補助率が高い交付金事業の研究とその活用しか活路は開けないと考えます。教育総務課にも努力していただいています。厳しいところです。前回、補正予算が組めたこと自体、ある意味「奇跡」。感謝しています。

(12)メールアドレスが欲しいな... 0621修正(お詫びします)

修正前は、職員が保有するメールアドレスがないとしていました。しかしこれは間違いでした。お詫びと共に修正させていただきます。申し訳ございませんでした。

これは校務パソコンの更新時に導入されたミラ임に、校長用・教頭用以外に、「教員用(校長・教頭・事務職員以外全て)」の共有するアドレスが設定されていました。但し、個人に振られたものではないため、全員が同じメールを受信することになります。当初、事務職員にも設定されていましたが削除されました。

山崎小では、定着していませんでした。それは、アドレスが設定されていなかったり、間違ったアドレスが設定されていたりしていたためでした。今回の支援室便りの発行で、改めて確認することができました。現在、ICT支援員に修正をお願いしています。念のため、みなさんの学校でも確認されることをお勧めします。

「事務職員の校務パソコンにもメールアドレスが欲しい。」...については、財務パソコンでも「県域ドメイン」が活用できないか?教育総務課・町のデジタル推進係・ICT支援員に相談・了承を得ることで、特殊な設定が必要となりましたが可能であることを確認できました。これにより校務用パソコンとのデータの移管が容易となりました。また、私はチャレンジできていませんが「Teams」を活用することも有効なようです。

「今ある環境」の理解を深めることで、活用しきれていない機能を試したり、組み合わせたりして、解決できることもあるのかもしれませんが。互いに紹介し合うことで、業務改善や授業の充実につなげたいものです。

(13)その他(引継ぎ? &これからしたいこと)

最初に山崎小ローカルな「引継ぎ」から(笑)。赴任当初、山崎小では 1 台の共有パソコンに接続していた「ちゃっちい(笑)」ハードディスクにて情報の共有がなされていました。みなさん、そのパソコンを USB 片手に遠慮しつつ奪い合っていたのを見て、衝撃を受けていました(笑)。そこで他校の状況を確認。山崎小の状況(遅れ)を教育総務課に指摘し、NAS(一応ミラーリンク対応)の購入とそれに各校務用パソコンを接続する(曲がりなりにも)「情報共有化システム」の構築を提案し実現できました(当時の教育総務課の担当者に感謝です)。よって過去のデータはまだ、そこに残っているはず。卒業アルバムの作成や(ないとは思いますが)閉校等を迎えることがありましたら、データをご活用ください。もしかすると既にデータのバックアップは済んでいるかもしれませんが。

なぜ、ここでわざわざ紹介したのか?。それは他校においても似たようなことはありませんか?...ということ。過去のものであっても「データ」は大切です。また、「データ」を紛失したり、漏洩したりすると大変です。状況を把握している職員が残っているうちに今一度、ご確認のうえ、対応を検討されることをお勧めします。

今後は...。先生方は嫌がるかもしれませんが(笑)、ブルーライトカット用フィルムとセキュリティワイヤーを校務用・授業用の両パソコンに導入したいです。実は前任校()市)では、セキュリティワイヤー

は校務用パソコンには標準で装備されていました。よって授業用のみ購入。ブルーライトカット用フィルムは、衛生推進委員会からの要望で導入しました。フィルムを張れば、光の反射等で?見にくくなりますが目の保護に。セキュリティワイヤーは、「せっかくワイヤレス化を図ったのに...。」...と文句を言われそうですが(笑)、落下(破損)・紛失・盗難等の防止に有効です。また、使用頻度が高くなればなるほど、使用後に保管場所へ戻す作業。その億劫さから開放されます。マウスのワイヤレス化にも取り組みたいところですが...。いずれも予算確保の目処が立たず実現できていません。

4 私見です(笑)

みなさんの学校ではどのようなことが話し合われ、整備・改善していますか?。常に情報交換を行い良いことは取り入れ、改善につなげたいものです。小さな自治体であるさつま町は残念ながら財政面で大きな市に太刀打ちできません。しかしこれまで紹介してきたとおり、いろいろな連携や工夫・努力により実現できていることも多いです。

世界的な半導体不足や感染症拡大・政情不安等で、入札が成立せず実現できていませんが、カラー印刷機の導入は昨年度から決まっています。また教師用タブレットの導入についても今回予算が確保されました。

しかし、ただ待っているだけでよいのでしょうか?。どのような性能・機種が使いやすいのか?。「現場の声」を届ける提案があっても良いように思います。

小学校(中でも低学年と高学年)と中学校(各教科)でも目的や用途に違いがあるのでは?。児童・生徒のタブレットとの関連性。軽く片手で持ちながら授業ができるもの。画面の大きさ。デジタル教科書やロイノート(・スクール)との相性。授業をする管理職にもあるのかな?授業をしない管理職には必要ないかもね(笑)。...等、検討すべきことはたくさんあると思います。せっかく予算が確保されたのなら、使いやすいもので授業をしたいですね。そのために「自分たち(教員)」で検証し、提案しましょう。このような場合は学校事務職員を経由せず、情報担当者部会や学校教育課が中心に動くべきでは?。その方が効率的です。そして、大事なのは「スピード感」と「適切な役割分担」だと考えます。「スピード感」とは、まずこのような動きがあることを伝え、意見を反映させる時間を確保すること。「適切な役割分担」とは、予算を確保し執行する「教育総務課」と学校現場(教員や情報担当者部会)の意見を集約し伝える「学校教育課」が、互いの役割を理解し連携することを指します。

5 私見です(妄想編)

必要最低限の予算で、最大の効果を生む。「授業の充実」が図られることが理想です。そして、それが学力向上につながれば言うことなし!。児童・生徒も保護者も先生方も、はたまた教育長や町長までもが喜び展開でしょう(笑)。結果が出れば更なる予算獲得も夢ではありません。今回の教師用タブレット導入をとおして是非、そのような流れ(関係)をつくってください。

しかし、教育って「目先の利益(結果)」ばかりを追うものでもありませんよね。長期的な視点。一つ一つの積み重ね。そして、その「過程」が大切でもあります。まあ~学校事務職員から言われても説得力はないでしょうが(笑)。

「目的と情報の共有」。「連携」は大切です。しかし、現在の学校現場と教育委員会。正確には教職員と学校教育課と教育総務課の連携はどうでしょうか?。みなさん、それぞれでとても忙しいです。連携を深めるためにはある程度の余裕と緩衝材(クッション)的役割が必要に感じます。また、「親近感」と「緊張感」。「刺激」と「楽しさ」みたいな少し矛盾をはらんだものも。また、そのバランスも大事かもしれません。それらは、どちらか欠けていても...というより、どちらかだけでは、単なる「(それぞれの)一方通行」にしかならないように思います。忙しさもあり、互いに連携している「つもり」だと思いたいだけ。もしくは、そのようなことに気づく余裕すらないのかもしれない...。

確かにとても忙しいです。しかし、少しの余裕。「時間」さえあれば「連携」もでき、業務改善や新しいアイディアも生まれるような良い循環が生まれるかもしれません。今回のテーマ「ICT 機器(関連)」に振り回さ

れたり、毛嫌いしたりせず(笑)。もっと気軽に、そして有効に活用することで、その時間を生み出すきっかけになったらいいですね…。この支援室便りが少しくらいお役に立つ…まではいかなくとも、そのヒントになってもらえたら幸いです。

さつま町の規模、さつま町の教育委員会(教育総務課と学校教育課)となら、(そのような)「理想的な」関係が築けそうな気がします。そして、私たち学校事務職員(事務職員部会)は、それらの「架け橋」的役割を担えたらと考えています。そのポジションを真剣に楽しむ的な、バランスの取れた「しなやかな覚悟」と共に…(笑)。

6 最後に

これは「支援室便り」…のはずでしたが、教育論文級?のボリュームとなりました。申し訳ございません。…と言っても私は1回も書いたことがないのでよく分かりませんが(笑)。

しかし、これは「支援室便り」です。そして、私は「学校事務職員」です。よって最後は、それらしく?締めたいと思います。

唐突ですが…。冗談なしに(笑)。まずはお互い「節約」から始めてみませんか?。現実的な問題として、予算がなければ何もできません…。今、予算は横ばいか、下降傾向。今年度は、特に教育委員会も含め備品費が相当厳しいです…。そこに急激な物価上昇が広がっています。例えば、山崎小での「【商品名】」の購入では、昨年度末(2月発注、3月納入)よりも、年度をまたいだだけの(4月発注・納入)では大幅に値上がりしていました。これは、他の多くのことでも同じ状況です。非常に厳しい現実です。そして山崎小では、学級減に伴う大幅な予算減も相まって、既に「金欠」に突入する勢いです(笑)。

昨今の状況を鑑みるとこれからさらに厳しい経済状況を迎えることになりそうです。予算面も心配ですが公務員に対する視線も一段と厳しくなる恐れがあります。その時に私たちにできることはそれぞれの役割を誠実に担いその責任を果たすこと。そして子どもたちのためにみんなが連携することだと考えます。

「児童・生徒(・職員も)の安全確保」・「予算の有効活用」・「保護者負担の軽減」。これは、学校事務職員にとって大切な3つの願いです。是非、みなさんもしっかりと覚えておいてください。

そして…。とっても大切な「セ・ツ・ヤ・クの心」も忘れずに(笑)。共に頑張りましょう。

7 編集後記?

この支援室便りの発行にあたっては、教育総務課長様をはじめとする課内のみなさま、学校教育課の様をはじめとする課内のみなさま、情報担当者部会顧問の様、ICT支援員の様、各校の学校事務職員。そして山崎小学校全職員のみなさん…いろいろな方々に事前確認及び貴重な御指摘やアドバイス等をいただきました。それらをもとに修正・加筆を行っています。また、長文&駄文にて大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りし、あらためてお詫びと感謝を申し上げます。もしかすると?これは県内で最も長文の支援室便りなのかもしれません(笑)。

そして、今回の支援室便りの確認作業及び発行をとおして、山崎小で行われていた数々の「試行」は、次の段階である「通常」へ移ったことを認めていただきました。御協力ありがとうございました。

もちろん、今回の支援室便りをとおして、各校へ還元することを目指しましたが、本当はこっちが、私にとっての隠された?「メインテーマ」(笑)。万が一、私の異動後にトラブルが発生しても対応できないので、ホッとしています。頑張って書いた甲斐がありました(笑)。巻き込まれた方々には、ご面倒をお掛けしましたが、各校において少しでも活用・応用等ができましたら、授業の充実や業務改善等につながると思います。それをもってお許してください。

何か不明な点等ありましたら、山崎小学校の大井までご連絡ください。どこまでお答えできるか分かりませんが、可能な限り対応させていただきます。ただ、それぞれの道に「プロ(専門家)」がいらっしゃいます。そちらを頼られる方が、解決への近道だと考えます。私ができるようにして、解決の糸口を探し求めてきたことは、今回の支援室便りに包み隠さず記させていただいたつもりです。いよいよ?これにて本当におしまいです。もし、ここまで辿り着いた方がいましたら…。その我慢強さに、そして、長文読解に敬意を表します(笑)。